

所在地案内

本所 〒062-0922 札幌市豊平区中の島2条2丁目4-1
代表TEL (011) 822-2131 FAX 822-3342

業務推進部

業務推進課 TEL 822-2177 FAX 822-3342

課長、課長補佐
業務推進係、連絡調整係

業務管理課 FAX 822-3342

課長(822-2150)、経理マネージャー(822-2152)
管理係(822-2175)、用度係(822-2176)

さけます研究部 FAX 814-7797

海区水産業研究室(822-2349) 資源研究室(822-2340)
遺伝資源研究室(822-2341) 環境・生態研究室(822-2354)
技術開発室 TEL 822-2250 FAX 823-8979
室長、技術開発係、資源調査係、技術普及係

展示施設 さけの里ふれあい広場 (千歳事業所内)

〒066-0068 千歳市蘭越9 TEL 0123-23-2804

開館時間 10:00 ~ 16:00

休館日 毎週月曜日及び年末年始(12/27 ~ 1/5)

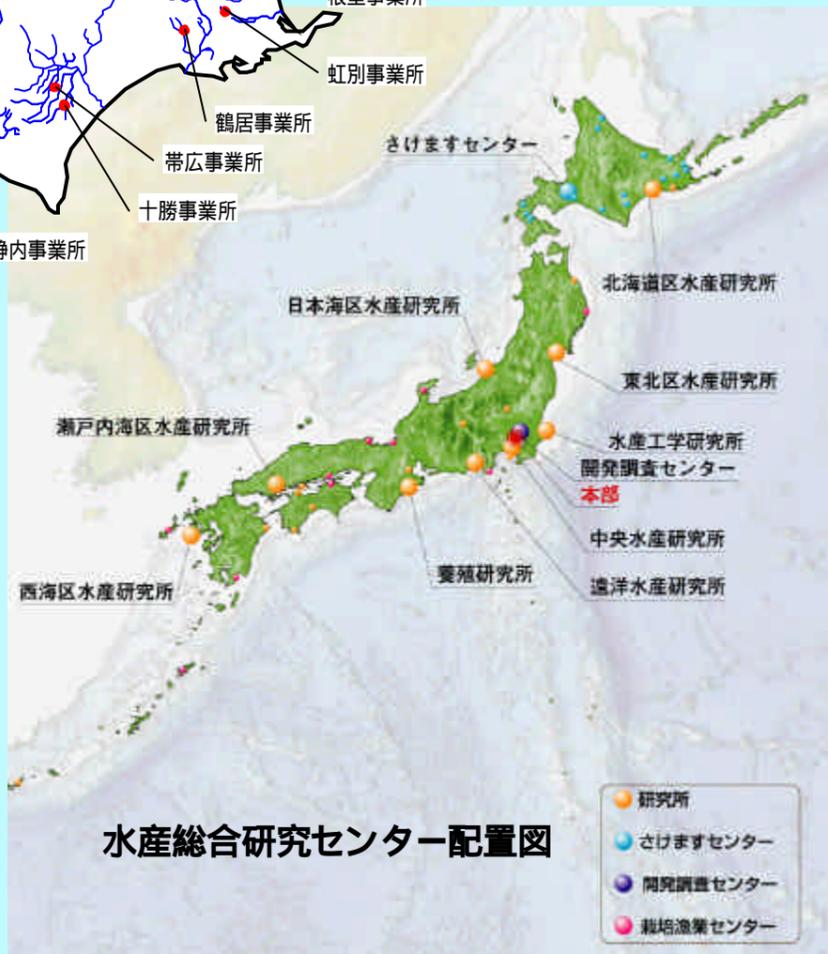
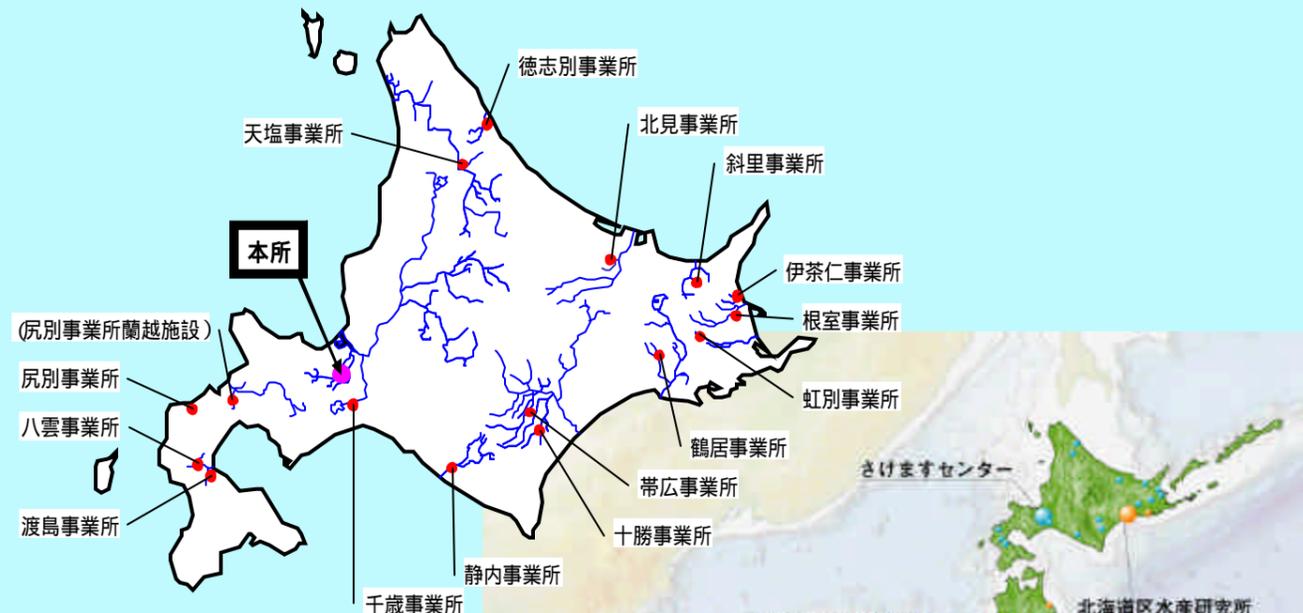


独立行政法人 水産総合研究センター

さけますセンター



さけますセンター配置図



水産総合研究センター配置図

<http://www.salmon.fra.affrc.go.jp/>

はじめに

我が国では、17世紀頃から産卵のため川へ帰ってきたサケを保護し、天然産卵を促す試みが行われていました。1888年(明治21年)官営の千歳中央孵化場(現在のさけますセンター千歳事業所)が石狩川水系千歳川流域に設置され、これを契機にサケの人工ふ化放流が北日本各地で進められてきました。1952年(昭和27年)水産資源保護法の施行に伴い水産庁北海道さけ・ますふ化場が設置され、国が中心となって積極的にさけます類の増殖を推進した結果、1970年代(昭和45年)以降、サケの資源量は飛躍的に増大しました。

長い歴史を持つさけます増殖事業によって、我が国のさけます資源量は極めて高い水準に達しましたが、資源変動の増大、南北及び東西間の較差拡大、遺伝的多様性の保全、生態系への配慮など多くの課題が残されています。こうした課題を解決し、さけます類の適切な資源管理に資するため、1997年(平成9年)10月、北海道さけ・ますふ化場は、さけ・ます資源管理センターに改組されました。

2001年(平成13年)4月、中央省庁等改革基本法に基づく行政改革の一環として独立行政法人となり、2006年(平成18年)4月には、(独)水産総合研究センターに統合され、さけます類の幼稚魚期から沖合回遊、産卵回帰に至る生活史全般にわたる研究開発体制が整備されました。さけますセンターでは、個体群の維持のためのふ化放流とふ化放流に係る研究開発を総合的に推進し、その成果を広く普及しています。



明治期の千歳中央孵化場

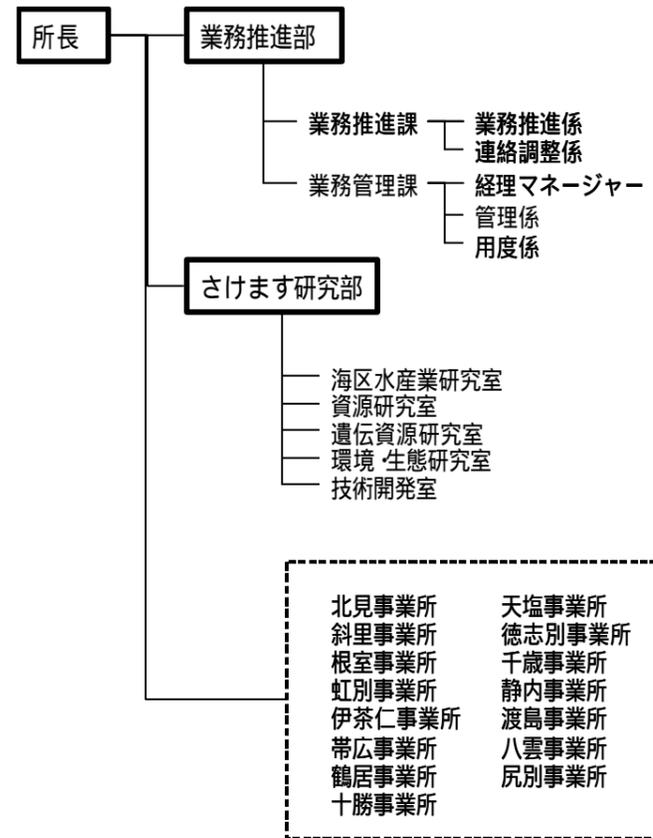


千歳事業所

あゆみ

- 1888 (M21) 最初の官営孵化場として千歳中央孵化場(現千歳事業所)を設置
- 1952 (S27) 水産資源保護法の施行に伴い、水産庁所管の北海道さけ・ますふ化場を設置
- 1962 (S37) サケ稚魚の給餌飼育調査を開始
- 1964 (S39) 沿岸域での幼稚魚生息環境調査を開始
- 1967 (S42) 稚魚の給餌飼育に乾燥配合飼料を導入
- 1975 (S50) 沿岸生息環境調査結果に基づくサケ稚魚の適期放流を開始
- 1977-1981 (S52-56) 農林水産技術会議『さけ別枠研究』へ参加
- 1980-88 (S55-63) 農林水産技術会議大型別枠研究『マリンランチング計画(サクラマス)』へ参加
- 1984 (S59) サクラマス、ベニザケの本格的な研究と資源造成を開始
- 1997 (H9) さけ・ます資源管理センターへ改組
- 2001 (H13) 独立行政法人へ移行
- 2006 (H18) (独)水産総合研究センターと統合し、さけますセンターを設置
東北区水産研究所、日本海区水産研究所にさけます類の研究開発を担当する調査普及課を設置

組織図



研究開発

海区水産業研究室

ふ化放流を基盤とするさけます漁業の生産管理戦略の開発に向けて、国産さけます類の安定的な需給構造構築に必要な経営経済的条件の解明、水産物の輸出入が魚価形成に与える影響の解明に取り組んでいます。

資源研究室

放流後の海洋生活初期の稚魚の成長、栄養状態による資源評価手法の開発、減耗要因の解明、回帰資源の適正な評価に必要な漁獲物に占める地域起源の割合解明に取り組んでいます。

遺伝資源研究室

遺伝的特性を分析する鋭敏な遺伝マーカーの開発、遺伝的集団構造と多様性の解明、遺伝的多様性保全に配慮した資源管理方策ガイドラインの作成に取り組んでいます。

環境・生態研究室

放流魚と天然魚の降海生態、河川回帰生態の解明、天然魚と共存可能な増殖技術の開発、天然資源を維持・回復するための河川環境の保全・修復技術の開発に取り組んでいます。

技術開発室

健苗性の評価基準の確立、地域特性に合わせた健苗育成・放流技術の開発、薬剤に依存しない健苗育成技術の開発、スモルトの効率的な大量育成技術の開発に取り組んでいます。

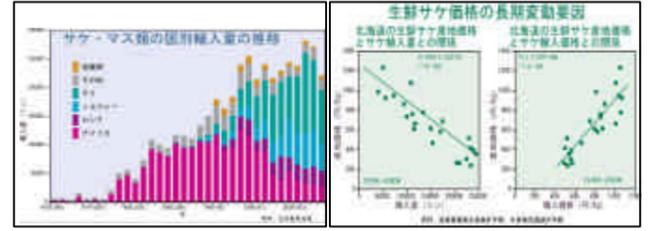
ふ化放流及びモニタリング

サケ、カラフトマス、サクラマス、ベニザケの個体群の維持を図るため、それぞれの個体群を代表する河川で遺伝的特性を保つためのふ化放流を行っています。全ての稚魚には、資源状況を把握し、研究開発を進めるため、個体群毎に異なる耳石温度標識を施して放流しています。

また、研究所や道県の機関と連携し、民間ふ化場での種卵確保から放流までの増殖管理、放流から回帰までの生態及び生息環境、個体群の遺伝的特性等のモニタリングを実施しています。

技術普及

増殖事業の効率的な推進を図るため、研究開発等から得られた知見に基づき、民間増殖団体等を対象に技術普及を行うとともに、技術研修会、成果発表会等を開催しています。



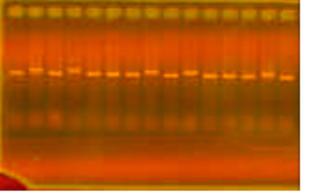
サ(上2尾) カラフトマス(下2尾)降海幼魚



サの「アカイ」標識放流



組織からのDNA抽出



DNAを用いた遺伝分析



サマス幼魚の生息調査



湖上の障害となる河川工作物



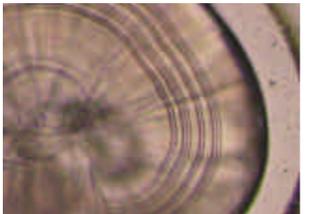
サケ親魚の採血



サマスの降海型スモルト幼魚(左列)と河川残留型P-幼魚(右列)



放流間近のサケ稚魚



サケ稚魚の耳石温度標識



民間ふ化場での技術普及



さけます関係研究開発等推進特別部会